

Q. 以下の点についてご教示いただければ幸いです：

1. 幼児体育の教育的意義（心身発達への影響）
2. 適切な運動プログラムがもたらす効果
3. 現代における誤った幼児体育観の是正方法

A. ご質問について、前橋の考えを説明させていただきます。

1. 幼児体育の教育的意義（心身発達への影響）

幼児期は、身体的・認知的(知的, 精神的, 情緒的)・社会的発達の土台が形成される極めて重要な時期です。幼児体育は、以下のような多面的な発達を促進します。

■ 身体的発達への影響

基礎的運動能力の向上：走る・跳ぶ・投げる等の基本的な運動を通して、巧緻性・敏捷性・バランス感覚などが育まれます。

また、体力の増進：継続的な運動により、心肺機能や筋力の発達が促進され、病気への抵抗力も高まります。

運動習慣の形成：幼児期の運動経験が、将来的な運動習慣の有無や生活習慣病予防と密接に関係しています。

■ 心理的・認知的発達への影響

自己効力感の育成：「できた！」という体験を通じて、自信が育まれ、挑戦する意欲も高まります。

注意力・集中力の向上：ルールのあるあそびや競技を通して、集中する力やルールを理解する力が養われます。

■ 社会的発達への影響

協調性・コミュニケーション能力の発達：友だちとの関わりの中で、順番を待つ、助け合う、勝敗を受け入れるといった社会性が育まれます。

2. 適切な運動プログラムがもたらす効果

「適切な運動プログラム」とは、発達段階に即した内容・量・質をもち、多様な運動経験を提供するものです。以下のような効果が期待されます。

■ 運動面発達段階に応じた運動機能のバランスよい向上

偏った動きの回避（例：走るばかりで跳ぶ・投げる経験が少ない等）

■ 心理面

自己肯定感の向上（小さな成功体験の積み重ね）

挫折への耐性や感情の自己調整能力の育成

■ 社会面

他者との関わりを通じて、社会性やマナーが育つ

リーダーシップやフォロワーシップの育成

■ 長期的な効果

運動に対する肯定的態度の形成

健康的なライフスタイルの基盤づくり（生涯スポーツへの素地）

3. 現代における誤った幼児体育観の是正方法

現代社会では、以下のような誤解や偏った認識が幼児体育に対して存在しています。

■ 誤った認識例

「危険だから外で遊ばせない」「運動よりも勉強が大切」

「運動は自然にできるようになるものだから、教える必要はない」 「幼児体育では、積極的に笛を使う」「幼児体育＝スポーツ技術の早期習得」と考える早期専門化志向

■ 是正の方法

① 保護者・教育関係者への啓発

ワークショップや講演会を通して、幼児体育の発達の意義について発信する。

保育・幼稚園での活動の様子を「見える化」し、保護者に伝える機会をもつ。

② 保育・教育現場での質の高い実践

幼児の興味や発達に応じた運動あそびの導入

安全と挑戦のバランスを取った環境整備（例：柔らかいマットや可動遊具の活用、危険な時、必要な時のみに笛を使う。）

③ 政策・制度レベルの支援

幼児の運動指導の専門家（例：幼児体育指導者）の配置促進

教育課程における身体活動の充実（「あそび」の価値の再評価）